

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

牧野高校の教育方針

本校の教育指針である「自尊」、「自浄」、「自助」の精神を身に付け、多様化・国際化する社会で個性を活かし、自らの使命を果たせる人材を育成する。

めざす学校

生徒ひとりひとりが、本校で充実した学校生活を過ごす中で、明るい将来の展望を持ち、自らの個性と、将来果たすべき社会的な役割を意識して、

1. かけがえのない存在として自らの能力を信じ、伸びしろに期待した高い目標に挑戦し、失敗に学び、達成して成長の喜びを実感する学校
2. 志や使命感を持ち、他者への感謝と思いやりを忘れず、礼儀を弁えて、自らの品性と教養を磨く学校
3. 何事も、自ら考え、自ら判断して行動し、結果に対しては自ら責任を取るとともに、失敗にくじけず、何度でも自らの力で立ち上がる精神を育む学校

2 中期的目標

1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善（「 」内は学校教育自己診断におけるアンケート設問事項。以下全て同様。）
 - (1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等を見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。
 - ア 校内の『授業力改善委員会』による持続的な授業改善を推進する。
 - ※ 「牧野高校の授業はわかりやすい」の生徒の肯定回答を令和5年度までに80%以上にする（H29 69%、H30 76%、R1 77%、R2 78%）。
 - イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。
 - ※ 令和5年度までに95%以上の教員が定常的にICTを活用した授業を実施できるようにする（H29 59%、H30 80%、R1 81%、R2 93%）。
 - ※ 令和5年度までに95%以上の生徒がICTを活用した授業が多いことを実感できるようにする（H29 54%、H30 81%、R1 83%、R2 91%）。
 - ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。
 - ※ 「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を令和5年度に55%以上にする（H29年度45%、H30年度47%、R1年度49%、R2年度53%）。
 - ※ 「授業の予習、復習は『できていない』」を令和5年度に5%以下にする（H29 12%、H30 10%、R1 9%、R2 8%）。
 - エ 新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和4年度から学年進行で実施できるようにする。
 - (2) ICT機能を活用して、学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等への学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。
 - ア 校内に設置した「ICT、GIGAスクール対応推進委員会」を中心に学校休業時や、新型コロナウイルス感染者と濃厚接触者等の学習補完を充実する。
 - イ GIGAスクール構想における1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。
3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現
 - (1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。
 - ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。
 - ※ 「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を令和5年度に90%以上にする（H30 82%、R1 84%、R2 87%）。
 - ※ 「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を令和5年度に90%以上にする（H30 82%、R1 87%、R2 86%）。
 - (2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。
 - ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。
 - ※ 体育祭や文化祭、修学旅行等について、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものになるよう必要な見直しや修正、変更を検討、実施する。
 - ※ 「部活動は活発である」への生徒の肯定的回答を令和5年度まで90%以上で維持する（H29 94%、H30 94%、R1 94%、R2 93%）。
 - ※ 「部活動と学習の両立ができていく」の生徒肯定回答を令和5年度には75%以上をめざす（H29 64%、H30 62%、R1 69%、R2 73%）。
 - イ 生徒に、コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。
 - ※ コロナ併存社会で可能な、進路講演会やイベントを行うとともに、国公立大学や同志社大学出身の外部講師による講演等の計画、実施を模索する。
 - ※ 「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を令和5年度85%にする（H29 77%、H30 81%、R1 78%、R2 80%）。
 - ※ 「将来の進路や生き方について考える機会がある」の生徒の肯定回答を85%以上で維持する（H29 80%、H30 85%、R1 86%、R2 89%）。
 - ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。
 - ※ 学力の3要素、とりわけ思考力・判断力・表現力等の能力や、主体的に学習に取り組む態度を養うために、「総合的な探究の時間」を充実させる。
 - エ 生徒が、入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。
 - ※ 進路実現のために、高校3年間で考える力を養い大学入学共通テスト形式にも慣れるとともに、定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。
 - ※ 令和5年度までに大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上（H29年度69%、H30年度76%、R1年度77%、R2年度70%）にする
 - ※ とともに、そのうち5教科型の出願者を50%以上（H29年度35%、H30年度41%、R1年度52%、R2年度32%）にすることをめざす。
 - ※ 令和5年度までに、国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の30%以上（H29年度16%（56名/358名）、H30年度20%（78名/395名）、R1年度18%（63名/354名）、R2年度12%（43名/353名））にして、現役合格者数を卒業見込み者数の10%以上（H29年度6%（23名/358名）、H30年度5%（19名/395名）、R1年度4%（13名/354名）、R2年度2%（8名/353名））をめざす。
 - ※ 令和5年度までに、国公立大学と生徒の人気の高い関西難関私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者合計が卒業見込み者数の50%以上になるようにする。（H30年度48%（188名/395名）、R1年度49%（175名/354名）、R2年度60%（211名/353名））
4. 新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - (1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。
 - ア 新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員がカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する。
 - ※ 「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率80%をめざす（H30 69%、R1 67%、R2 72%）。
 - ※ 「牧野高校には悩みを相談できる場（人や部屋）がある」への生徒の肯定的回答80%以上をめざす（H30年度80%、R1年度76%、R2年度78%）。
 - (2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減
 - ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R2年度値】	自己評価
1. 新型コロナウイルス併存下での「確かな学力」の育成と授業改善	(1) 「確かな学力」の育成と授業改善 ア 『授業力改善委員会』による持続的な授業改善の推進 イ ICTを活用した授業推進 ウ 生徒への授業の予習、復習の習慣づけ指導 エ 生徒の進路希望が叶う新カリキュラムの準備	(1) 新型コロナウイルス併存下で、新学習指導要領の実施や、高大接続システム改革等の先行きを見据えて、「確かな学力」の育成とそのため授業改善を進める。 ア 『授業力改善委員会』で持続的な授業改善を推進する。 イ 『主体的・対話的で深い学び』実現をめざし、ICT機器やネットワーク環境を一層充実させ、ICTを活用した授業等の実施機会を拡大・推進する。 ウ 入学時の学力を卒業まで維持、発展・向上すべく、生徒に、授業の予習、復習を行うよう習慣づけを指導する。 エ 新学習指導要領を踏まえ、生徒の進路希望が叶う新たなカリキュラムを準備し、令和4年度から学年進行で実施できるようにする。	ア・「牧野高校の授業はわかりやすい」への生徒の肯定的回答を79%以上にする【78%】。 イ・ICT活用する授業を実施する教員と、生徒の実感を何れも93%以上にする【各93%、91%】。 ウ・生徒の「授業の予習、復習は『できている』、『まずできている』」を54%以上に【53%】、『できていない』を7%以下にする【8%】。 エ・新学習指導要領対応の新カリキュラムを準備完了する。	
2. ICT活用授業の推進とGIGAスクール構想対応	(1) コロナ感染者等の学習補完とGIGAスクール推進 ア コロナ感染者等学習補完 イ GIGAスクール構想推進	(1) ICT機能活用で学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を図るとともに、GIGAスクール構想への対応を推進する。 ア ICT機能を活用して学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を充実する。 イ 1人1台端末の導入に対応し、校内のハード（電子黒板との連携）、ソフト（教員研修）両面でのICT活用推進を図る。	ア・『ICT、GIGAスクール対応推進委員会』を発足させ、学校休業時や新型コロナウイルス感染者等の学習補完を実施可能にする。 イ・1人1台端末導入に対応、電子黒板と連携する教員研修を2回以上実施する。	
3. コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜く、生徒の豊かでたくましい人間性を育成するための教育機会の拡充と希望の進路の実現	(1) 多様性、共生の意識醸成 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者の人権意識醸成の機会を作っていく (2) 生徒の高校生活の充実と希望進路の実現 ア 部活の活発さを持続しつつコロナ下での行事等見直し イ 進路について生徒に意識させ、考えさせる機会の充実 ウ 「総合的な探究の時間」の充実、学力の3要素の養成 エ 入学から卒業まで全教科を学び学力をつけて、生徒の希望の進路実現させるための進路指導体制の充実	(1) コロナ偏見を許さず、人種や国、性の違い、障がいの有無等に拘りなく多様性を認め合い共生するための、生徒、教職員等の人権意識を醸成する。 ア コロナ偏見を許さないとともに、生徒、教職員、保護者に対して、多様性を認め合い共生するための、人権教育、人権意識醸成の機会を作っていく。 (2) コロナ併存社会、コロナ後の社会を生き抜くために、生徒の高校生活を充実させるとともに、生徒の社会での役割・使命を意識させ、希望の進路実現を図る。 ア 非認知能力を育む部活動の活発さを持続しつつ、学校行事、生徒会行事については、コロナ併存社会、コロナ後の社会で可能なものに見直しをしていく。 イ コロナ併存社会、コロナ後の社会で、大学進学等のその先20年後を見越したキャリア形成や進路について、分かりやすく意識させる機会を持つ。 ウ 「総合的な探究の時間」を充実させ、学力の3要素（①基礎的知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体的に学習に取り組む態度）を養う。 エ 入学から卒業まで全ての教科をしっかりと学び、学力をつけて、生徒の希望の進路を実現させるための進路指導体制の充実を図る。	(1) ア・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」の生徒の肯定的回答を88%以上にする【87%】。 ・「牧野高校は人権教育に積極的に取り組んでいる」の保護者の肯定的回答を87%以上にする【86%】。 (2) ア・行事等の見直し実施。 ・「部活動は活発である」生徒肯定回答90%以上を維持する【93%】。 ・「部活動と学習の両立ができている」への生徒の肯定的回答を74%以上をめざす【73%】。 イ・進路講演会、イベント実施 ・「進路に関する指導や講習、説明会はわかりやすい」の肯定回答を81%以上にする【80%】。 ・「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定回答90%以上にする【89%】。 ウ・「総合的な探究の時間」を多様な形で充実させる。 エ・定期的に全国比較での学習の定着度や到達度を測る。 ・大学入学共通テストの出願者を卒業見込み者の75%以上【70%】に、そのうち5教科型の出願者を50%以上【32%】にする。 ・国公立大学の現役受験者数を卒業見込み者数の20%以上【12%】、そのうち現役合格者数を卒業見込み者数の5%以上【2%】にする。 ・国公立大学と関西圏私立4大学、関西人気私立4大学、関西人気3女子大学への現役進学者が卒業生数の50%以上になるようにする。 【60%】	

<p>4. 新型コロナウイルス併存下における教職員研修での教職員の資質の向上と、「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減</p>	<p>(1) 教職員の資質向上 ア 相談能力養成のための教職員研修充実</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、教職員の長時間勤務を縮減する。</p>	<p>(1) 新型コロナウイルス併存下において、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に充分に応えられる資質を養成する。 ア・新型コロナウイルス併存下で可能な教職員研修を行い、教職員が、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導や生徒相談に応えられる資質を養成する</p> <p>(2) 「働き方改革」の推進による教職員の長時間勤務の縮減 ア 「働き方改革」や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。 ・一昨年度実施した職員会議のデータベース化、ペーパーレス化を他の会議等にも応用し、会議時間縮減や、新たな部活動実施指針に基づく部活動時間の圧縮、ICT活用による教材の共有化・効率化で、一層の超過勤務削減を進める。 ・校内行事を見直し、縮小、廃止等を検討する。 ・新たな実行性ある働き方改革の施策を検討、実施することで、長時間勤務縮減を図る。</p>	<p>(1) 教職員研修の充実 ア・「牧野高校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている」の教員肯定率 80%をめざす【72%】。 ・「牧野高校には悩みを相談できる場(人や部屋)がある」への生徒の肯定的回答 79%以上をめざす【78%】。</p> <p>(2) 教職員の長時間勤務縮減 ア・会議のデータベース化、ペーパーレス化徹底で会議時間を縮減するとともに、新たな部活動実施指針に基づき部活動時間を圧縮、また校内行事を見直して、「働き方改革」を具体的に進め、教職員一人あたりの超過勤務時間数で、前年度比 3%、H29 年度比 30%の削減をめざす。【H29:37 時間 36 分、R 2 : 26 時間 35 分】</p>	
---	--	--	---	--